

舞鶴市幼児教育・保育の質向上推進事業

平成27年度 実践報告会

舞鶴市乳幼児教育ビジョン策定

～0歳から小学校就学前の質の高い教育・保育を目指して～

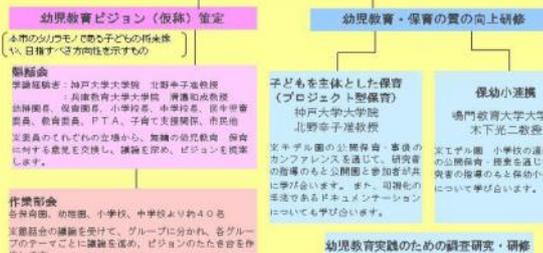
平成27年度

舞鶴市幼児教育・保育の質向上推進事業

平成27年度 事業概要

～保育園・幼稚園・小学校・中学校が一緒に取り組む～

幼児教育・保育の質向上推進事業



乳幼児教育ビジョン策定の流れ

- 平成27年5月23日 記念講演と第1回懇話会

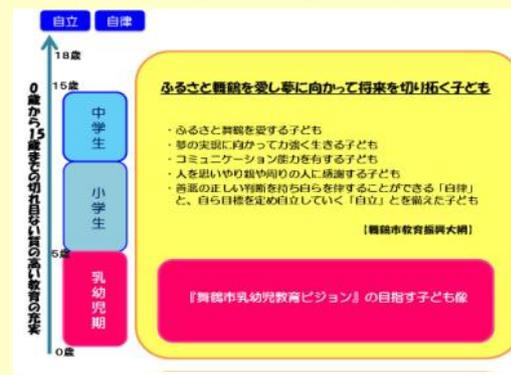


乳幼児教育ビジョン策定の流れ

・作業部会



ビジョンの位置づけ



舞鶴市では0歳から15歳までの一貫した教育の充実・強化に取り組んでいます。先生方におかれましては、十分にご承知のことと存じますが、乳幼児期は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期とされています。乳幼児にかかわる人・関係機関等が乳幼児において大切にしたいことを共通認識していけるよう、本市における「乳幼児教育ビジョン」を作成することとなりました。

2月の広報まいづるでご覧になっておられるかと思いますが、ビジョンの案がまとまり、パブリックコメント手続制度に基づき、市民の皆様からの意見を募集している段階であります。3月1日まで市民の皆様からの意見を募集し、その意見を踏まえて、3月中には「舞鶴市乳幼児教育ビジョン」を策定することとしております。

本日は先生方にもビジョンについて理解を深めていただきたく、ビジョン作成の経緯と中身について簡単にお話させていただき時間を設けました。

今年度のニュースレター第1号でお知らせしております通り、この質の向上推進事業は大きな2本の柱を持って今年度進めてまいりました。1つ目の柱はビジョンの策定でもう1つの柱は幼児教育・保育の質の向上研修です。研修については後ほど、子どもを主体とした保育・保幼小連携ともに報告いただきます。

ビジョン策定は、懇話会と作業部会との2つの会が構成されて進められていきました。

懇話会では、子どもを主体とした保育の研修でお世話になり、本日ものちほど指

導講評をお願いしています北野幸子先生を会長に迎えて委員さんのそれぞれの立場から本市の乳幼児教育・保育に対する意見交換が行われました。

5月23日に行われた、第1回の懇話会でははじめに記念講演があり、北野先生から「乳幼児期の発達」「教育・保育の考え方」「遊びや体験を通して学ぶ」こと等をお話いただきました。この講演会は作業部会のみなさんにも聞いていただきました。

作業部会では、市内の保育園・幼稚園・小学校・中学校の代表者の方に集まっていたいただき、グループに分かれてテーマごとに議論する・アンケート調査を実施するなどして、それぞれの立場から子どもたちの現状を語り合い、課題を見出しビジョンのたたき台を作成しました。

作業部会はこれまで、公立私立・校種をこえての交流はほとんど行われていませんでしたので、それぞれの立場から見つめた子ども・家庭像について、保育・教育に対する考え方をすることは意義深いことでした。第4回の作業部会では懇話会の副会長をお世話になりました兵庫教育大学大学院 教授の溝邊先生から校種間の連携の大切を学ぶ場を設けました。そのあとの作業部会での話し合いはより、具体的な内容になり、保幼小中の職員が共通の学びを得たことはとても貴重な機会でした。

作業部会では、
・指示待ちではなく、自分で考えて自ら動き出すことができる力を持って欲しい。
・人とかかわることを苦手としている現状から、意図的に仲間とともに生活する経験を設けること、仲間との生活の中での規範意識の必要性を学ぶことも大切で

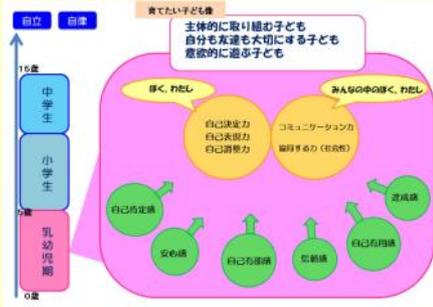
はないか。
・達成感や成功体験を重ねることで失敗しても何度でも挑戦することができる姿勢を培って欲しい。
といった子ども像に対する意見が出されました。

自己肯定感、自己有用感、自己有能感についても議論され、信頼関係や愛着形成がすべての基盤になること、生活習慣の確率と体つくりの大切さも確認されました。そして、子ども達は家庭・教育機関・地域と様々な環境での経験を通して育っていくことからそれぞれの役割や連携の必要性に対しても意見を出し合いました。

作業部会での意見が懇話会にて議論され、その議論を受けて再度、作業部会で深めていくという繰り返しを経て今回のビジョン(案)となっています。
それでは、その内容についてお話をしていきます。

まず、ビジョンの位置づけについてです。
はじめにもお話ししました通り、本市では子どもの発達を連続性をもってとらえ、その時期に適した保育・教育を考えていくことを目指しています。図で示していますように乳幼児期に育むことは、これから先の小中学校教育において目指している「ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども」に向かっていく基盤となります。0歳から15歳までの教育の中の乳幼児期を担う部分が今回策定したビジョンになります。

1. 育てたい子ども像 育てたい力、育てたいところ



次に、育てたい子ども像、育てたい力、育てたいところについてです。

- 「主体的に取り組む子ども」
- 「自分も友達も大切にできる子ども」
- 「意欲的に遊ぶ子ども」

の3つを育てたい子ども像としてあげました。

自己決定力・自己調整力・コミュニケーション力等の育てたい力と安心感・信頼感・自己肯定感等の育てたい心を育み、将来自分で生きていく【自立】と、自分で考えて行動していく【自律】という二つを備えてほしいと願っています。

まず、育てたい子ども像の「主体的に取り組む子ども」は「ぼく、わたし」という主体的で意欲的な自分を示します。

これは、自分で考え、判断し、行動する力という「自己決定力」、自分の思いや考えを伝える力「自己表現力」、集中し根気強く取り組み、考え工夫し、見通しを持つ力「自己調整力」を育成することでこの姿に近づけると考えます。

次に「自分も友達も大切にできる子ども」についてですが、「みんなの中のぼく、わたし」という集団とその一員である自分との関係について示しています。自分を大切にされた子どもは友達のこと大切にすることができます。仲間との生活の中でコミュニケーション力や集団生活を成り立たせていく上で必要になってくるルールを守る力、相手の気持ちを受け止める力も身につけてほしいと考えます。

子ども達は「ぼく、わたし」と「集団の一員としてのぼく、わたし」を行きつ戻りつながら育っていきます。

そして、様々なことに興味・関心をもつものや人に関わり三点目の「意欲的に遊ぶ子ども」を目指します。

このような子ども像に近づくために育てたいところとして、図の中の丸で囲んで示しました6つをあげています。文字数により丸の大きさが異なりますが、大切さは同じ

2. 基本理念

主体性を育む乳幼児教育の推進
～みんなでつながり育む舞鶴の子ども～

○主体性の育成

- ①自己決定力、自己表現力、自己調整力の育成のために大切にしたい関わり
- ②コミュニケーション力、協同する力(社会性)の育成のために大切にしたい関わり

○自己を肯定するところの育成

- ①自己肯定感、自己有能感、自己有用感、達成感の育成のために大切にしたい関わり
- ②安心感・信頼感と愛着形成の確立

です。

・安心できる居場所で「安心感」を抱くこと

・信頼できる人と過ごす中で「信頼感」を持つこと

・自分のやりたいことに取り組む中で「達成感」を感じる

・自分のことが好きと感じる「自己肯定感」

・自分もできる、やればできると感じる「自己有能感」

・自分が人の役に立った、人から認められたと感じる「自己有用感」です。

いまお話ししました「育てたい子ども像・力・ところ」の実現に向けて家庭・地域・保育所・幼稚園・小学校・中学校・行政等、子どもを取り巻く全員が認識を共有することで基本理念に～みんなでつながり育む…～という言葉が入っています。

そして、「主体性の育成」と「自己を肯定するところの育成」の2つをあげました。

主体性の育成にあたっては、自己決定力、自己表現力、自己調整力の育成のためには、1つ目に「一人一人の子どもを理解し、個々の個性やよいところ、得意なところを伸ばすようにかかわっていくこと」2つ目として「子どものやりたい気持ちを尊重して意欲を育て、その際には子ども自身が気づくことができるよう周りの大人が言い過ぎない、見守る、ヒントを与えるといったようなかわりに心がけること」が必要となります。

コミュニケーション力、協同する力の育成のためには

- ・子どもの言葉に耳を傾け、応答的にやり取りする
- ・自分の思いを話し、相手の考えを聞いて互いに認め合う場をつくる
- ・集団の中で互いに気持ちよく過ごすためにルールが必要であることを経験したり話し合ったりする場を持つ
- ・友達と思いが違うことを知ることや、いざこざの場面を自分の気持ちをコントロールする力を培う場面ととらえる といったかわりを大切にしたいと思います。

自己を肯定するところの育成については

3. 基本方針

①質の高い乳幼児教育の充実

- 1) 主体的な遊びと体験の充実
- 2) 土台となるからだところの育成
- 3) 発達に応じた支援の充実
- 4) ふるさと舞鶴を愛する乳幼児教育の推進
- 5) 保育者の質の向上

一人一人の良いところがほめられる→自信を持つ→意欲を持って物事にかかわる→周りの人に認められる・達成感を感じる→人の役に立つことができた喜びを感じる、といったサイクルの中で自己肯定感・自己有能感・自己有用感・達成感を育てていきます。ほめる・認めるといったかわりを大切にしたいと思います。

そして、将来にわたる人への信頼感の出発点になる適切な「愛着」形成が重要であり、ありのままの姿を受け止めてもらい安心・安定感を持って過ごせる居場所作りが必要です。

基本方針についてですが、ここからは簡単にポイントだけをお伝えしていきます。

質の高い乳幼児教育の充実、保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携の充実、地域ぐるみの乳幼児教育の推進の3点をあげています。

乳幼児教育は子ども自らが環境にかかわり、遊びを通して自身が感じたり考えたりすることが基盤となります。また、子ども達ののびのびと体を動かし、ところを揺れ動かして多くの感情体験を積み上げてしっかりと土台作りを行っていかれることも欠くことはできません。これらのことを考慮しながら実践し、保育を振り返り、その評価を次に活かす繰り返しの中でそれぞれの園・保育者の保育観が充実していき内容の濃い実践となっていきます。

保育計画を立てる際には子ども達の発達を理解し、発達に即した保育内容になることと個々の発達に応じた支援を行うことも考えなくてはなりません。



<h3>3. 基本方針</h3> <p>②保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携の充実</p> <p>1)園・校種を越えた異年齢交流の推進</p> <p>2)乳幼児期の学びを育ちをつなぐ連携活動の推進</p>	<h3>3. 基本方針</h3> <p>③地域ぐるみの乳幼児教育の推進</p> <p>1)保育所・幼稚園と家庭・地域の連携の推進</p> <p>2)それぞれの役割と連携の推進</p>	<h3>今後の方向性</h3> <p>～乳幼児教育ビジョンの普及・啓発～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者・教員、家庭・地域などさまざまな人に向けて発信(共通理解) ・パンフレットの発行、講演会などの開催(理解を深める) ・保育者・教員の研修会開催(実践に活用)
---	---	---

連携の充実については子どもの育ちを乳幼児教育と学校教育とをつなげることと互恵性ある連携活動にしていくことをポイントにしたいと思います。

地域ぐるみの乳幼児教育の推進については基本理念のところでお伝えしましたように子どもを取り巻く大人たちがつながり合って子ども達の育ちを見つめ、考えていきたいと思えます。その中で、保育所・幼稚園の役割としては保育内容の充実にも努めるとともに、公私、職種、園・校種の枠を越えて連携する、家庭の

パートナーになる、家庭・地域への情報発信をする、地域と連携することがあげられます。

今後の方向性についてはここに示した通りですが、今回策定されたビジョンの内容が子ども達の育ちに生かされていくことが最も求められることです。

作業部会に参加してくださった先生方の感想で連携の大切さを学んだ、幼児期に大切なことは小中学校にもつながっていることだ。という意見をたくさんいただきました。

子ども達を取り巻くそれぞれの校種の職員が同じ場に会ってビジョンを実践に反映させていけるよう研修できる機会を持ち、それぞれの教育の充実に努めていけるようにしたいと考えています。

またビジョン策定後は、広く市民や地域団体等に対しまして、ビジョンの内容をわかりやすく説明したパンフレット等を作成したり、市民向けの説明会や講演会などを開催したりして、ビジョンの啓発・普及に努めていくことにしております。

研修実践報告「子どもを主体とした保育」

実施報告<事務局>

子どもを主体とした保育 (プロジェクト型保育)

【公開保育・カンファレンス】

☆3園が初めて、2園は、3年連続実施

☆全園が部分日案(指導案)作成に取り組む

☆幼稚園・小学校も参加




保育園名	日時	参加人数	研修内容
舞鶴市立中保育所	平成27年6月18日(木) 午前	59人	公開保育、カンファレンス
	午後	60人	ドキュメンテーション研修
永福保育園	平成27年7月13日(月) 午後	50人	公開保育、カンファレンス
やまもも保育園	平成27年9月15日(火) 午前	45人	公開保育
	午後	41人	カンファレンス ドキュメンテーションのグループワーク
タンポポハウス	平成27年10月15日(木) 午前	35人	公開保育、カンファレンス
東山保育園	平成27年11月11日(木) 午前	54人	公開保育
	午後	44人	カンファレンス ドキュメンテーションのグループワーク
舞鶴幼稚園	平成27年12月2日(木) 午後	30人	公開保育 実践研究報告、講演

学んだこと～環境～

☆子どもが何に興味・関心があるのか、よく見て、環境を構成する

☆子どもを主体にした環境：子ども自身で、子ども同士で

いつでも選んで遊べるコーナー

⇒ままごと、造形遊び、絵本、生き物、自然物...

子どもと子どもをつなぐ環境

⇒つくえ、いす、ベンチ...

空間

⇒遠い、近い、見える、聞こえる距離

ものや絵本の置き方、位置



学んだこと～素材・道具～

☆活動に応じた教材・素材・道具の準備

～数を意識して～

素材の工夫

⇒色、感触、材質、形、大小...

用途によって違う道具

⇒かなづち、くぎ抜き、ポンド、テープ...

イメージしやすいモノ

⇒ままごと：なべ、ボール、混ぜるモノ...

☆多様な素材は、子どもの想像力を膨らまし、素材の特徴を知り、道具を選ぶ、工夫する力になる




学んだこと～保育者のかかわり～

- ・指示・命令語ではなく、「どうしたい?」「どうしたらいいかな?」誘い語、問いかけの言葉
- ・モデルであり、援助者である～やりすぎると、指示的になる、見守りばかりでは、遊びは発展しない。子どもがやりたいことをいっしょに実現してくれる人
- ・子どもと子どもをつなぐ～保育者もつなぎ、環境もつなぐ工夫を

☆保育者自身の「こうでなければならない」という意識を変える、子どもも自分も枠にはめない

学んだこと～振り返り場面～

- ・単なる感想に終わらない
- ・20分程度
- ・保育者自身が、何を伝えたいのかトピックスは何か?考える
- ・個々の気づきや発見、学びをつないで「みんなの」ものとする機会
- ・みんなに伝えたい、見せたい気持ち、友達の話を知りたい気持ちが大事

☆子どもの発言を中心にしながら、子ども同士を行ったり来たりするように
☆保育者が話す時は、子どもを主語にして話す



学んだこと～乳児の保育～

☆安心・安定できる居場所

- ・否定ではなく、肯定的な言葉
- ・「楽しかっただね」「悲しかったね」「嫌だっただね」など、共感の言葉

☆発達を意識する

- ・けんかやトラブルはチャンス、そこでどんな力を育てるのか、してはいけないことは繰り返し伝えていくが、否定しすぎると自己肯定感を損なってしまう

☆乳児の愛着形成、自我...自己発揮することが、5歳児以降の他者への思いやりにつながる

学んだこと～指導案～

- ・ねらいを意識し、環境を構成し、子どもの姿を予測することで、援助方法を導く
- ・ねらいが達成できたか、**評価の観点**を書くことでよりねらいを意識できる
- ・何を育てたいか(ねらい)を明確に

☆育ちや学びを意識して指導案を作成する



公開保育報告(公開園代表)

<永福保育園>



平成25年から始まった「保育の質の向上」事業について、永福保育園でも取り組みを重ねてきました。初年度は、保育の可視化を目指した「エピソード記録」ではありますが、一方、普段の生活の中にある保育の活動を職員で話し合う機会を作ることが出来ました。

二年目となる26年度には、保育のねら

いと内容を踏まえた「ドキュメンテーション」に取り組みました。参観日等に各年齢について掲示を数回行うことで保護者にも保育の活動を一定ご理解いただくことができたと思います。

今年度については、永福保育園で初めての「公開保育」を平成27年7月15日に行いました。夏の午後ではありましたが、元気な子ども達が大好きな「園庭遊び」で、しゃぼん玉、虫探し、竹馬などを行っている様子を見ていただきました。

公開保育を行うに当たり、子どもの目線で保育環境を見直したり、動線を踏まえた工夫を行いました。玩具については、「恩物」を意識しながら充足する状況を作っていたはずですが、実際に再度確認してみると数や内容に不足があり追加することになりました。また、園庭の遊具などの使い方や配置についても見直しをかける機会となりました。少人数で遊ぶことでそれぞれの距離が近くなり、遊びこむ環境になりました。また、自分で好んで遊ぶことから、集中する時間が長くなってきました。

子どもの主体性を保育士が意識することで、全体への声掛けの際にも、子どもの興味関心に配慮するようになってきたと思います。子どもの気づきや学びを大切に

し、待つことも意識して関わるようになってきました。

昨年行ってきた「ドキュメンテーション」も継続して行い、保育の内容とねらいを子どもの目線で再考する機会となりました。合わせて、年齢や発達段階を考慮した保育の活動について、保護者などにも普段の子どもの生活の一部を理解をいただくことができたのではないかと考えています。回数を重ねることで、記載してある細かい内容まで読んでいただいているのを見かける回数も増えていきます。

職員会議などでも、普段行っている保育について、全員で考え意見交換する場面を作ることが出来、まとめ上げる事で、園の保育の意味を再考する機会となりました。公開保育を含め種々継続し更なる向上を目指したいと考えております。

子ども達が園の内外で見せてくれる表情や楽しんでいる様子を見ると、保育士の仕事って、本当にいい仕事だと感じます。子ども達の成長のはやさすとすばらしさを見せてもらえることを、個人的に私は「保育のきらきら感」と呼んでいます。

この子に、こんな力が。……

あつ、あの子にそんな力が。……

『驚心心』(倉橋惣三先生)を持ち続けたいと思っています。

<タンポポハウス>



かえました。子どもたちの主体性を生かしゲームの部屋や変身オシャレコーナーの部屋も作りました。すると、手作り衣裳を身

タンポポハウスの 小森裕美です
今年度 身体を思い切り動かして五感を刺激する遊びをたくさん取り入れていこうという目標を掲げ発達に合わせた遊びを展開しました。

0歳児は 室内で 静と動のコーナーを作ったり 月齢に応じた 手作りおもちゃや遊具などを用意しました。1歳児はホールでゲームボックスやマットを使って回遊遊びをしました。2歳児は 園庭遊びで乗り物や遊具 玩具の種類を豊富に揃える等工夫をしました。

○子どもたちは自分のしたい事や好きな遊びを見つけて遊び お友だちに刺激をうけて 出来ることやしたい遊びをリクエストする姿が増えてきました。この環境づくりについては今後も継続していきたいと思っています。

○子どもへの関わりは 安全面を配慮し見守りながら一人ひとりに寄り添うように心がけてきました。今後更に 子どもの姿発想 動きなどの予測の幅をひろげ 友だちとのトラブルをチャンスと考え 相手の思いを知ったり 思いやりの気持ちを持つように関わっていききたいと思います。

幼児は 週に1回《なかよしデー》でたてわり保育の活動をしています。3・4・5歳児を3つのチームに分け

春は お散歩でコースを分けて 同じ場所に行ったり 夏は プール 色水遊び シャボン玉遊びなどをしました。

その後 《製作遊び》に向け 廃材や素材を意識して集め 子どもたちの動線や目の高さを考えた棚を配置したり 作る物に合わせて 小分けして用意する等 工夫をしました。散歩や遠足に出かけた際 子どもたちが目的を考えながら自然物を拾い集めたり

自分たちで作ったゲートボールやボーリングを楽しみ 子ども同士でルールを作って遊ぶ姿もみられました。

スライム・粘土をはじめ 段ボールに貝殻や 枝 ドングリなどを貼って仕上げた壁掛けなど 自分たちの作品を「飾ってほしい」という気持ちから展示ギャラリーが生まれました。

ビーズやスパンコールは ネット クレスやプレスレット作りに大活躍でしたが 人気偏りすぎて使い方を見直すために 一時廃止にしたこともありました。製作遊びが活発化して工夫できるようになった頃に 再開した所 万華鏡や手作り衣裳の飾り バックの装飾など様々な使い方が出来るようになっていました。衣裳合わせや ビーズのネックレス 頭に飾る大きなリボン作りが盛んになり 全身を映す姿見を用意すると子どもたちが集まり 更に姿見を増やしました。気づけば 男の子の変身姿も見られました。空き容器で作った太鼓やギター・マラカス等の楽器類が増えたのを機に 大人気のステージが登場。このステージは昨年行事で使用したものを 再利用したものです。その頃流行っていたのは 年少児が運動会で踊った勇気100%の曲です。

子どもたちは 《たてわり》で取り組むことによって 刺激を受け 作ったり 表現することで自信がつき 完成に向けて役割分担をし 協力し合い 作りたいものが明確化して 必要な物を保育士に伝え 工夫して作れるようになりました。

4歳児ちゃんは 元々あまり目立たない女の子でしたが この衣裳づくりを機にトレットペーパーの芯をマイクに見立てて積極的にステージで歌ったり 踊ったりして 保育士達を驚かせてくれました。それ以来 表情も明るくなり 今だに姿見のリクエストがあるオシャレさんです。

○保育士も子どもたちと同じ思いで 一緒に作ることを楽しみ 自分の思いをうまく表現できない時は キッカケ作りをし ヒントとなるような声掛けや 選択肢を提案して 自信に繋げていけるように関わりました。

毎年11月に 園全体で《お店屋さんごっこ》をしています。これまでは 限られた時間の中で、クラスごとに品物や店を決め 売り手・買い手を 分刻みで行って来ました。

今年度は製作遊びで自信をつけた子どもたちが 主体的に取り組めるように 2日間に分けて実施しました。1日目は 乳児に向けた品物を中心に売ったり 一緒に買い物をし ほぼ例年通りでした。2日目は 自分たちで作った物を売り買いしやすいように 2歳児から上の幼児中心の流れに

にまとった姿で 買い物をする子どもたちがあちこちに出現し 今までと違ったお店屋さんごっこに発展 我々保育士も 心から楽しめました。

公開保育の頃、人形劇に取り組んでいた年長児は たてわり保育の度に 人形作りや配役決めに専念し お父さんもまきこんで台本づくりを協力してもらいました。チケット係も加わり 現在も発表の日に向けて 着々と準備に取り組んでいます。またステージで 歌や踊りを楽しんでいた年中児たちは 現在(いま)もショータイムを繰り広げる中 割り箸を両手に持って全身で指揮者を演じる子どもが誕生し 今後の子どもたちの姿に目が離せなくなっていることを追加報告させていただきます。

○最後にタンポポハウスでは、毎月 園だより・給食だよりを始めクラスだよりにおいて 月々の行事のお知らせや 子どもたちのつづやき 行動 成長などを掲載していますが 幼児の仲良しデーの報告も写真付きで 保護者に向けて貼り出しています。

ドキュメンテーションでは 初めのころは子どもたちの報告が主になっていましたが《子どもの育っている力》を意識し 言語化するようになり 写真の撮り方も全体から手元へ繋げるように変化していきました。○そんな流れの中で 子どもたちの生活や日々の継続された遊びに 耳からだけでなく 視覚的にも保護者に興味を持ってもらえるようになり 特にお迎えの時間には 足を止め ドキュメンテーションを見たり 子どもとの会話の中で理解を深めてもらえるようになりました。定期的に持ち帰る作品も 家でも遊びが続いたり空き箱などでコツコツと製作遊びをするなど 成長として喜ばれる報告をよく聞くようになり 手応えを感じているところです。

○公開保育に向けて 各クラスで 指導案の作成に時間を掛けて話し合い 普段の保育のあり方を見直し 同じ思いで保育が出来るようになってきました。これからも子どもをしっかりと見つめ 環境作りや子どものことばを拾う事を大切に 子どもを主体とした保育に取り組んでいきたいと思っています。 ありがとうございます。

<東山保育園>

プロジェクト型保育を行ってきたの今年度の報告をさせていただきます。

東山保育園では3・4・5歳児クラスでたてわり保育を行っています。

6月に、子ども達が長年慣れ親しんできた大型遊具が解体されることになりました。子ども達が大好きだった遊具。何か記念になるものが作れないかとの思いから、使われていた柱を数本、置いておくことにしました。そして、4、5歳児クラスの子も達に提案。「これで何か作れないかなあ」と「絵を描いたらいいんとちがう?」「色がいっぱいぬってあったらきれいやで」「それを玄関に置いとこ」などの意見が出てきました。その「玄関」という言葉をきいて「トータムポールはどうだろう」と考え、早速、子ども達にトータムポールの写真を見せました。「それ楽しそう」「みんなで作ってみよう」と意欲的な声が上がりました。材料として、柱以外にも家の解体現場から木をたくさんもらってきました。作業は4つのグループに分かれて開始。柱への打ちつけは保育士がしました。トータムポールが出来上がると、今度はそれに色をぬろう、模様をつけようということになり、全員が筆を持って絵の具あそびを楽しみました。

友だちとの共同作業の中では「ここにこの木を置いてみようか」「もっと離れたほうがいいで」「ここは私がするで、あっちをして」など、一緒に考えたり、試したり、お互いに意見を出し合うなど、多くの関わりが見られました。その姿に人との関わりの中での育ちを感じました。また、愛着のあった遊具の廃材を使うことで、作るものをより身近に感じ、物を大切にしようとする感謝の心も生まれてきました。

トータムポールを作っている間に、子ども達の興味はくぎや金づちにも向いてきました。「自分達もやってみたい」くぎ打ちあそびが始まりました。まずは大きめのくぎを使って地面への打ち込みから。手をうまくコントロールして道具をつかいこなせるようになった子ども達からは、更なる欲望が出てきました。「木にくぎを打ってみたい」残っていた木を出すと、とびつくようにくぎ打ちを始め、木と木をつなげて作品を作りました。やがて腕を上げた子ども達からはこんな意見が出るようになりました。「丸い木とかあったらいいのに」「大きいものが作ってみたい」「これでは木が足りん」「作った物をみんなに見せたい」そこで、工務店からたくさんの廃材をもらい、作品展に向けての作品作りが始まりました。



自ら作りたいという意欲を持って取り組む中では、自分のイメージしたものを工夫し、考えながら表現することを楽しむ姿が見られました。それと同時にこんな姿も見られました。金づちのどこを持ったら力が入りやすいのかを考えて握る場所を変える、木の厚みに応じてくぎの長さを変える、くぎをどこに打ち込んだら木が固定できるのかを考えるなど、子ども達は経験の中で道具や用具の効果的な使い方に気づき、多くのことを学んできました。また、「ここを持つといてあげる」「この木にはこのくぎの長さがいいよ」「この羽根のとこ、本物みたくて格好いいなあ」と友だちと助け合ったり、認め合ったりしながら、作る過程を楽しんでいました。

木片に興味を持ったのは4、5歳児だけではありませんでした。3歳児も年上の友だちの活動の様子を見て興味を持ち、木片を積んだり、並べたりしながら、線路あそびへとそのあそびを広げていきました。更には、一緒になってくぎ打ちあそびをし始める姿も見られました。そこに、自分たちもやってみたいという意欲の育ちを感じました。

そして木という存在は、子ども達のあそびの中にも自然に入り込んでいきました。園庭では大きな木の板を使って橋や家を作ったり、シーソーにしたりなど、様々なあそびの様子が見られました。

現在室内では、木ごま回しが子ども達のブームになっています。これまでたくさん木に触れる機会があったからか、例年の子ども達に比べると今年の子も達は、木ごまの扱いが上手です。木に対する親しみもわいてきているのだと思います。

木ごま回しの様子を見て一つ感じていることがあります。年上の子が年下の子に、ひもの巻き方やこまの回し方を教えている。自然な当たり前の姿なのですが、これは子ども達の中に芽生えた信頼関係が、ひとつひとつ積み上げられてきたからこそ見られる光景なのではないかと思えます。

日常の保育の中で乳児クラスも一緒にあそんだり、おやつを食べさせてもらったり、部屋の移動を手伝ってもらったり、また

時には幼児クラスのあそびに参加させてもらったりなど、枠を越え関わる場面が多くあります。自分達が大きい子にもらった関わりを嬉しく感じて育ち、今度は自分よりも小さい子に同じようにしてあげようとする気持ちが育っていています。小さい子にもお世話してあげられる喜びも感じているようです。年齢を越えたつながりでお互い人間関係が築け、それが乳児の学びへとなっています。

幼児クラスと乳児クラスの多くの関わりの中にこんな嬉しい話がありますので、ご紹介させていただきます。年長児は、1歳児クラスでお手伝いすることが大好きです。一緒にあそんだりしながら過ごしているだけではなく、子ども達の育ちにも気がついているのです。「あっ、昨日より歩けた」「いっぱいお話できるようになった」など、子ども達の小さな成長に気づき、教えてくれます。その姿に、たてわりの関係の良さを感じています。たてのつながりが自然にできているのも、長い期間をかけて培ってきたものであると思っています。

幼児クラスになると、これまで以上に生活やあそびの中でのたてわり活動が濃密になってきます。年齢の垣根を越えた関わりの中では、信頼関係が芽生え、仲間同士のきずなが深まっていくのを感じています。また、自分で考え、判断する力がつき、子どもたち同士で会話を楽しむ中では、語いの力も育ってきています。

これからも年齢の垣根を越えた、たての関係を大切にしながら、子ども達と共に歩んでいきたいと思っています。

3年間、北野先生のご指導のもと、プロジェクト型保育を学んできました。その中では環境作りの難しさを痛感し、今後の課題もまだ多くあります。しかし、少しずつでも前進していけるよう、職員間同士の連携を密にとり、子ども達の発達を的確にとらえながら、子ども主体の保育を進めていきたいと思っています。ご指導を受ける中で私達はたくさんのことに気づかされ、自分達の保育を意識化することの大切さ、必要性を感じました。まだまだ学びの途中ではありますが、北野先生には感謝しております。ありがとうございました。

研修実践報告「保幼小連携」

実施報告〈事務局〉

平成27年度
幼児教育・保育の質向上事業
～保育の質の向上研修～報告会

保幼小連携

平成28年2月20日(土)
商工観光センター
コンベンションホール

保幼小連携

【公開授業・保育】
7月2日
「なつだあそぼう」
岡田小学校1年
岡田保育園年長
場所：岡田保育園 園庭
参加者：41名



12月1日
「あそびのフェスティバル
を楽しもう」
朝来小学校1、2年
朝来幼稚園年長
場所：朝来小学校 体育館
参加者：44名



保幼小連携

【生活科合同研修】

8月21日

午前：園見学

岡田保育園

舞鶴幼稚園

(小学校教諭対象)

午後：

講演「生活科を通じた保幼小の連携について」

鳴門教育大学大学院 木下光二教授

グループワーク「生活科保幼小連携活動年間計画
を作成してみよう」

参加者：45名



学んだこと～年間を通じて～

☆年間を通じて連携をしていくことが、接続カリキュラムになる

・子どものやりたいこと(興味・関心)と活動が一致しているか?⇒どんな経験をしてきたか、何に興味を持っているかを知ることが大事

☆互恵性のある活動

・普段の授業、保育に1年生と年長児がかかわることによって生まれるもの
・互いにねらいを持つ
・どちらも自己発揮できる



学んだこと～教師、保育者の役割～

☆環境や教師、保育者の意図的な働きかけによって
子どもの動きが変わる

合同授業の導入～ねらいの動機づけ

・何を知ってほしいか、学んでほしいか?どんな活動になってほしいか?を考え、そうなるための導入

振り返り

・どんな気づきがあったか?「どうなったの?」「なぜ、そうしたの?」と問いかける
・次の活動につなげる

環境

・準備しすぎない環境が大事⇒考える機会を奪うことになる

・誘いかける環境

※活動が停滞しているところに入り、モデルとなっ
てかかわる

学んだこと～学びの質～

☆日々の教育・保育の課題が連携することで見えてくる

・協力する、仲良くする、年下の子どもにやさしくする「人とかかわる力」は、普段から教育や保育の中で育ちまわっているかが見える

・普段の教育・保育がベースになる

☆交流活動から、学びのある連携活動へ

・保育...遊びの中の学びと

生活科...教科の中の学びを意識する

・日々の教育・保育に学びがなければ、連携にも学びはない



<朝来小学校>

朝来小学校の西村柔美です。今年度、朝来幼稚園の先生方と進めてきました幼小連携についてお話をさせていただきます。よろしくお願いします。

これまで、校区内に幼稚園があり、徒歩でお互いに行き来ができるという利点を感じながらも、何から始めればよいのか分からず連携できていない状態が続いていました。また、保幼小連携の必要性については分かっていたのですが、なかなかその第一歩が始められずにいました。

今年度は、本事業を受けたこともあり、年間を通して、朝来幼稚園との連携を進めていくことになりました。まず初めに取り組んだのは、幼稚園の先生方との打ち合わせでした。事前に校内の行事と照らし合わせ、1、2年生の担任を中心に計画を立て、4月の早い時期に打ち合わせをすることで、1年間の見通しを持って取り組むことができると考えました。

大きな取組としては、2学期の「遊びのフェスティバル」でしたが、その前に様々な活動を子どもたちが一緒にする中で、お互いの結び付きがより強まるのではなかという思いから、1学期から3学期を通して、交流していこうと考えました。

今年度の年間の取組としては、次の通りです。

- 4月・・・担任同士の年間計画の打合せ
- 5月・・・幼稚園訪問
- 6月・・・さつまいもの苗植え
- 8月・・・遊びのフェスティバルに向けての担任同士の打合せ
- 10月・・・さつまいもの収穫
- 9、10、11月・・・遊びのフェスティバルに向けての準備
- 12月・・・遊びのフェスティバル開催
- 3月・・・昔の遊び

まず、5月の子どもたちの顔合わせでは、1、2年生が幼稚園を訪問し、自己紹介をしたり、遊んだりしました。最初の顔合

わせということで、年長さんの緊張をほぐすためにも幼稚園で行うことにしました。1、2年生も懐かしい幼稚園を訪問し、自分たちがお兄さんやお姉さんになったという実感が湧いたように思います。

6月と10月には、幼稚園の畑に行き、さつまいもの苗植えや収穫に参加させていただき、交流を進めました。幼稚園の保護者や地域の方々に、様々なご支援をいただいたことによって、充実した楽しい活動ができました。

「遊びのフェスティバル」に向けては、8月から担任同士で教材の検討を始めました。昨年は、年長さんと1年生がお客さんとしてフェスティバルに招待してもらい、2年生がお店を運営するという形でしたが、今年度は年長さん、1、2年生で異年齢でのグループを作り、全員でお店の計画をし、運営することに決め、2学期から子どもたちが取り組めるように、グループ分けも検討しました。

2学期が始まってからは、幼稚園も小学校も運動会などの行事がたくさんありましたので調整しながら、9月から継続的に「遊びのフェスティバル」に向けての計画と準備を進めることにしました。9、10、11月をかけて6回の交流を通して、それぞれのグループごとに活動を進めました。

小学校の中で、低学年はまだまだ上級生にお世話をしてもらうことが多いので、2年生は異年齢グループの中でのリーダーとして、どんなふうに進めていけばよいか分からず、最初は悩んでいるようでした。しかし、継続的に活動を進める中で、少しずつリーダーとして今回の活動の見通しを持ちながら、役割分担をして進めていくことができるようになってきました。

また、1年生もグループの中核として、自分たちでできることを探し、年長さんと活動したり、2年生をサポートしたりする姿が見られるようになってきました。

「遊びのフェスティバル」の取組をする中で、みんなでフェスティバルを楽しみ、成功させるということが大きな目標でしたが、幼小連携の目的である年長さんに学校の

生活を知ってもらうことで、入学時、スムーズに小学校生活に移行できるという目標も大切に考えました。そのことから、活動は基本的には小学校の教室で行うこととし、学校の雰囲気慣れてもらうことを考えました。また、休み時間など自由な時間も持ち、年長さんと1、2年生と一緒に過ごす機会を持つことで、一緒に遊んだり、学校を案内したりする姿も見られました。その中で、1、2年生が休み時間が終わる前に教室に戻ることや、廊下は右側を歩くことなど、学校でのルールを年長さんに教えている姿にはびっくりしました。

「遊びのフェスティバル」まで、あと2週間となった頃、どのグループも自分たちのお店の準備がほぼ完成しました。そして、遊びを試してみたり、お店の宣伝を考えたりしながら、もっと自分たちのお店をよりよくするために工夫をするようになりました。ポスターを作ったり、飾り付けをしたり、当日に向けての役割を決めたりすることで、子どもたちのフェスティバルに向けての意欲や期待が高まっていったように思います。

「遊びのフェスティバル」の当日は、体育館を会場とし、8つのお店を開きました。どのグループもお店を運営するために、事前に役割を決めていましたが、年長さん、1、2年生に関係なく、みんなで盛り上げ、お店を成功させようと夢中になる姿が見られました。

今回は、全員がお店を回り遊ぶための時間を十分に確保したいと考え、前半と後半に分けて、お店の番をする人とお店を楽しむ人に分かれて実施しました。今後は、特に前半・後半を決めずに、お店の混み具合などを考えて、子どもたちの判断で交代しながら楽しめると、もっとよいのではないかと感じました。

また、終わりの感想交流では、年長さん、1、2年生それぞれに、自分の言葉で感想を発表し、振り返りを行うことができました。

今回、「遊びのフェスティバル」を中心に年間を通じて、朝来幼稚園との交流をしてきましたが、単発のイベントのようなもの

ならず継続的に交流できたことが、子どもたちが夢中になり、みんなで取り組めたことにつながっていると思います。また、特別な行事としてではなく、小学校の生活科の「遊びのフェスティバル」という単元に、年長さんも参加してもらおうということで、無理なく計画を進められたのだと思います。

1年間の交流を振り返り、気付いたことや大切にできたことを、大きく3つにまとめたいと思います。

まず、2年生の子どもたちがリーダーとして、活動役割分担をする中で、1番悩んでいる様子だったのは、「年長さんはどんなことができるんだろう。」ということでした。初めは、それが分からずほとんど年長さんに付きっきりで教えたり、簡単なことばかりしてもらったりしてしまい、年長さんが飽きている様子も見られました。しかし、交流を重ねる中で、2年生にも気付きがありました。それは、「年長さんは絵が上手だな。」や「折り紙も丁寧に折れるね。」など、こんなことができるんだという年長さんへの理解が深まり、活動の分担がしやすくなったようでした。その2年生の気付きは、私たち小学校の担任も同じでした。今回の交流をするまでは、入学前までにどんなことができるのかということ全く理解せずに、新1年生を迎えていたように思います。だから、入学してすぐの頃は、上級生から助けをもらい、お世話されるが多すぎたの

ではないか、入学時からもっと自分でできることがあるのではないかと気付きました。小学校の教師が、幼稚園でどんなことを学んでいるかを知ることにより、しっかりとした受け入れができ、入学後、スムーズに小学校生活へ移行できる手助けにつながるということを改めて感じました。

2つ目は、2年生がリーダーとしての自覚を持って取り組めるように、交流のときには毎回、司会や挨拶をする人を決めて、子どもたちが主体的に進めるようにしました。司会や挨拶は、毎回交代したので、ほぼ2年生の全員が経験することができました。その中で、自分たちで集会などを進める大変さはあるものの、自分たちで進めることができた達成感や充実感が得られたと思います。それは、これから中学年、高学年として学校全体をまとめていく力につながる第一歩だと考えています。また、1年生は、その2年生の姿を見て、「来年は自分たちもあんなふうに司会や挨拶をしていくんだ。」という憧れや期待を持つことができ、今後につながると思います。3学期には、1年生が中心となり、生活科の「昔の遊び」の単元で学んだことを活かし、年長さんと交流する計画を立てています。2年生への進級に向けて、少しずつお兄さんやお姉さんに成長している1年生の活躍が楽しみです。

3つ目には、交流の最後には、毎回、感

想交流をする機会を持ちました。その中で、毎回、自分たちの活動の振り返りを自分の言葉で表現することを大切にしました。それは、年齢に関係なくみんなの中で自己表現できる環境を作ることが、子どもたちのつながりをより深くすると思ったからです。また、みんなで振り返りを共有することが子どもたちの気付きにつながり、次の活動へ活かしていくことができると思ったからです。

課題としましては、教師の評価をどのようにしていけばよいかということが挙げられます。交流のときには、それぞれの担任が評価をすることにしていたのですが、もっと焦点を絞り、この児童のこの動きがよかったや、この発言がどんなふうによかったなどと評価することが、次の活動の児童の意欲につながると教えていただいたので、今後取り入れていきたいと思います。

また、朝来幼稚園との交流が今年だけの特別なことで終わらず、これからも継続的に続けていくことが大切だと考えます。そのためにも、小学校の年間のカリキュラムの中に、この幼小連携を位置付け、来年以降も計画的に行っていきたいと思っています。

桜が咲く頃、また笑顔いっぱいの新1年生に会えることを楽しみにしています。以上で、報告を終わります。ありがとうございました。

<朝来幼稚園>

前年度から、朝来小学校の遊びのフェスティバルにお客様として招待していただいているのですが、今年は一緒に取り組みたいという思いを校長先生・西村先生に相談し、快く受け入れていただき、4月に年間計画をたて何度も打ち合わせを重ねてきました。

1年を通して交流してきたことで、遊びのフェスティバルにむけての交流授業でも、スムーズに1・2年生と交わることができ、授業中だけでなく休み時間にはトイレに連れていってもらい使い方を教わったり、校庭や体育館で一緒に遊ぶ姿も見られました。それでも活動になると何をすればいいかわからず、ウロウロしたり、戸惑ったりする子どももおり、園での振り返りで「同じグループの1・2年生に何をすればいいかを聞く」ことを再確認しました。しかし回を重ねるごとに自発的に動く子が増え積極的に活動できるようになりました。

ちょうどその頃就学前検診があり、緊張することなく受けることができたことと保護者から嬉しい報告がありました。子ども達も「2年生の先生が耳の検査をしてくれた」とリラックスして受けられた様子が伺えまし

た。

いよいよ遊びのフェスティバル当日の朝、ゆり組のめあてを「お店屋さんとしてもお客さんとしても楽しむこと」にして学校に向かいました。

いつもと違う広い体育館でスーツを着たたくさんの先生方に囲まれた中での公開授業でしたが、緊張する様子もなく1・2年生と同じようにお店を運営したりルールを説明したりと自分の役割に責任をもって行動する姿がみられました。

どの子どもとも楽しそうで見に来られていた鳴戸教育大教授の木下先生やいろいろな先生方をお店に呼び込んでいました。授業後の感想交流では「大人の人がたくさんいたけど、楽しくできてよかったです」と自分の思いを言うことができました。毎回感想交流で発表するのは、幼稚園ではおとなしく感じる子どもでもした。活動の場面でも

いきいき、のびのびしていたのはやはりおとなしい子の方が多く、逆にリーダー的存在の子はあまり目立ちませんでした。このことには私自身とても驚き、自己発揮できる子とできない子が明確になり、新たな課題

がみえてきました。

交流後、園に帰る早速子ども達はお店屋さんを再現していました。魚を作る人、釣り竿を作る人、看板を作る人、ルールを書く人等々子ども達で工夫して作り上げていきました。自分たちで遊んだ後は年中さんを招待して楽しんでいました。ルールを説明する姿はまるで先ほどの1・2年生のようでした。年中さんも年長になれば小学校に遊びにいけると今から楽しみにしています。

先日、学級懇談会があり、就学にあたり不安なことを聞いたのですが、第一子の方が多く中、ほとんどの保護者が不安に感じておられず、

少し驚きましたが、1年を通しての学校や交流でいろいろな経験をし、子ども達が学び、成長したこと、そして何より子ども達が就学に対し不安感が全くなく楽しみにしている、ワクワクでいっぱいな様子を保護者も感じていらっしゃるのだと思います。今年度の取り組みでスムーズに接続できたのではないかと思います。

来年度も木下先生のご助言や反省をふまえ、連携していきたいと思っています。



＜舞鶴市小学校教育研究会生活科部＞

みなさまこんにちは。

私は、舞鶴市立高野小学校 井ノ口美津子と申します。現在、舞鶴市小学校教育研究会 生活科部部長をさせていただいております。私の方から、夏に開催いたしました幼稚園、保育園、小学校合同の保幼小連携研修会の成果と課題について報告させていただきます。

夏の保幼小連携研修会は、今年度で4回目を重ねることができました。鳴門教育大学大学院教授の木下先生にご指導を仰ぎながら、連携とは何かというところからスタートし、指導者同士の交流・連携を大切にしながら会を積み重ね、今年度は連携活動年間計画を立てるという活動を行うことができました。

保育園や幼稚園との連携がこれまでから進められている学校では、互いの話し合いもスムーズなのですが、まだそこまでいかなない学校も多いのが現状です。こうして研修の機会を持つことで、保育園、幼稚園の先生方とお互いのねらいを持ちながら無理のない計画を立てることができたことは、大きな成果ではなかったかと思えます。

小学校側だけで計画を立てるとどうしても、「小学生がしてあげる」「お世話をする」という活動になってしまいがちなところ、そうではなく、それぞれの良さを出し合いながら活動し、お互いが学びとなる活動にすることが大切なことを話し合いの中で考え合うことができました。このようにして、研修会の中で立てた年間計画を基に、今後の実践に取り組んでいただいた学校もあり、少しずつではありますが連携活動が進んでいることを実感することができています。

また、昨年度より、研修会の午前中に保育園や幼稚園の参観を行いました。

参観させていただくことで、学校との設備の違いを学ばせていただいたり、保育園、幼稚園の子どもたちがどのように過ごしているか、保育士がどのようにかかわっているのかということを実際に見させていただいたりすることで、小学校の教師はたくさんの学びをさせていただきました。とくに、学校に入学すると最年少者になり、高学年の児童にしてもらうことが多くなってしまいますが、学校で感じる以上に保育園や幼稚園では、いろいろなことが自分ででき、しっかり考えることができているなということや、保育者の関わり方の中で、子どもに対する声掛けや支援のしかたについてなど学ばせていただくことができました。思った以上に手を出されていないこと、反面のびのび過ごさせるためのきめ細かな配慮がなされていることなど、保育園や幼稚園の特性もあります。実際にそこから学ばせていただくことが多くありました。

保育参観をさせていただいた後の午後の研修会で、実際のイメージを持ちながら話し合うことができたこともよかったのではないかと思います。

ただ、小学校側は、生活科部の活動として進めているため、舞鶴市の全小学校の参加がかなわず、ブロックによってはなかなか話し合いが進まない学校もあります。研修会に参加いただいた先生方には、連携活動の重要性についてご理解いただいても、すべての教師がそうであるかというところでもあります。また、生活科というどうしても1、2年の担任が主になるため、担任も年ごとに変わってしまいます。繰り返し研修を重ね、多くの先生方に参加いただくことで、保幼小連携についての理解を広めていくことも大切だと考えています。

今後、学校全体として保幼小連携活動が位置付き、年間計画を作成すること

で、継続してできるよう、さらに、研修や研究を重ねていきたいと考えています。

保幼小中と10年間の切れ目のないつながりのある学びや育ちを大切にするため、今後とも保育園、幼稚園、小学校、中学校との連携を密に取り、連続性のある子どもたちの育ちを支援するため、お互いに協力していきたいと思えます。どうか、今後ともよろしく願いいたします。

以上で小学校からの報告を終わります。

研修実践報告「ドキュメンテーション」

実施報告<事務局>

平成27年度
幼児教育・保育の質向上事業
～保育の質の向上研修～報告会

ドキュメンテーション

平成28年2月20日(土)
商工観光センター
コンベンションホール

ドキュメンテーション研修

【参加型研修：グループワーク】

可視化するための記録：ドキュメンテーション
・ワークシートを元にドキュメンテーションに
書かれている保育について検討する

☆園内でドキュメンテーションとワークシート
を使って研修を!



保育園名	日時	参加人数	研修内容
舞鶴市立 中保育所	平成27年6月18日(木) 午前	59人	公開保育、カンファレンス
		60人	ドキュメンテーション研修
永福保育園	平成27年7月13日(月) 午後	50人	公開保育、カンファレンス
やまもも 保育園	平成27年9月15日(火) 午前	45人	公開保育
		41人	カンファレンス ドキュメンテーションのグループ ワーク
タンポポ ハウス	平成27年10月15日 (木) 午前	35人	公開保育、カンファレンス
東山保育園	平成27年11月11日 (木) 午前	54人	公開保育
		44人	カンファレンス ドキュメンテーションのグループ ワーク
舞鶴 幼稚園	平成27年12月2日(木) 午後	30人	公開保育 実践研究報告、講演

学んだこと～保育を見る視点～

☆ワークシートの項目を意識して保育し、
ドキュメンテーションも書く!

【ワークシートの項目】

- ・きっかけ=子どもの興味・関心
- ・育ちや学び～その根拠となる子どもの姿や
ことば
- ・保育者のかかわり～ねらいや意図を持って
- ・環境設定～子どもの興味・関心や保育者の
意図を意識して
- ・次の展開

ワークシート

平成27年度 幼児教育・保育の質向上事業 質の向上記録 フォーワーシート
園 () 園 () 園 ()
ドキュメンテーション中心に見る保育について

子どもが している姿 ・言葉 ・動作	
保育者 の関わり ・言葉 ・動作	
環境設定	
意図	
今後の展開	

学んだこと

～年齢に応じたドキュメンテーションで伝えたいこと～

【0歳児】

発達、居心地、安心、安定、五感(色、形、音)、
愛着について伝えると共に、保育者はどういう意
図を持っているのかも伝える

【1、2歳児】

発達の段階として、自己主張、自我の時期である
ことやそのかかわりについて伝える

【3歳児】

「なんでもやってみよう」という意欲の多様性や、
「できた、できない」の結果ではなく、何に関心
をもったのか、何に共感したのかを伝える

【4、5歳児】

人とのかかわりや協同的に遊ぶ、学ぶ姿を伝える



講評:神戸大学大学院 准教授 北野 幸子 氏



教育は0歳から

年齢による制度にとらわれない、つながりのある教育を目指していく。

これからの乳幼児教育に大切なことは

- ・大人の事情で子どもが分断・翻弄されないシステムの構築
- ・すべての子どもに対して保障すべき保育や教育をカリキュラム化する(共通化)
- ・保育専門職の研修を保障し、キャリアをあげていくシステム

“舞鶴市の子どもをどのように育てたいか”保幼小中の次世代育成を担う専門職が、子どもを中心とした議論をもとに作成している乳幼児教育ビジョン。

公私園種をこえて各園が質の高い教育を目指して取り組んでおられる公開保育・研修事業。

これからの乳幼児教育の在り方を舞鶴から発信をしていく。

これからの保育

乳幼児期は思い立ったら即行動、自己中心性、気持ちベースとなる。そのため保育の中に自明性、日常性、必然性があることが大切。

“～でなければならない”を問い正そう。

子どもとの相互作用で保育を進めていくことが求められている。シナリオは子どもの興味関心や言葉、発見、学びに合わせ臨機応変に変える。子どもと相互作用で創るエマージェントカリキュラムにしよう。

指示命令ではなく、疑問語・誘い語・提案語をたくさん話す。

主語は子ども！オープンエンドの問い「～ちゃんこんなしてつくったんだよね」・パラレルトーク「～ちゃんは〇〇って思ってるよ」等、子どもが実際にしていることを言語化することが大切。

コミュニケーション能力を育てよう。

体験の豊かさや、五感を使って生活や物、世界と関わることで、伝えたい気持ちや話したい気持ち、が育つ。ポジティブな体験の蓄積が語彙の豊かさやボキャブラリーにつながる。

感情や気持ちを表す言葉は友達と一緒にする“かなしかった”“うれしかった”“くやしかった”等の経験で育まれる。共同経験の積み重ねが人と関わる力になる。

舞鶴の乳幼児教育は日本中から注目されている。

時間や予算の確保が難しい中で、これからの保育を学び合い、互いに向上しようという姿勢、意欲がある。この数年でぐっと力をつけてこられていることをうれしく思う。今後の舞鶴の保育を楽しみにしている。



<p style="text-align: center;"> 幼児教育・保育の質向上事業 ～保育の質の向上研修～ 報告会 </p> <p style="text-align: center;"> 北野 幸子 (神戸大学大学院) </p>	<p style="text-align: center;"> 子ども子育て新システム </p> <p>① 大人の事情で、子どもが分断されない時代へ</p> <p>② 大人の変化で、子どもが翻弄されない時代へ</p> <p>③ すべての子どもの 保育カリキュラムの最低基準保障(共通化)の時代へ → ヴィジョンの作成</p> <p>④ すべての子どもの保育専門職の最低基準保障 (共通化)の時代へ → 研修保障 公開保育(実践)</p>
<p style="text-align: center;"> 保育者の研修の実態 </p> <p>公私園種を問わず、熱心になされている</p> <p style="text-align: right;">...と思う ...らしい ...と願う</p> <p>しかし.....</p> <p style="text-align: center;"> 制度の整備(保障の状況)は、差が大きい </p> <p>*新制度への期待 研修体制づくり、研修支援への方向性が見える インテンシブも → さらなる拡大へ</p>	<p style="text-align: center;"> 研修の実態 </p> <p>最低基準の法規定の整備をめざし、すべての 保育者に、公私立園種を超えて、公的な研修 の義務化を目指すべきでは？</p> <p>そのためには、 現行の公的研修について、公私園種を超えて 地域の自治体レベルの研修への参画を</p>
<p style="text-align: center;"> 子ども主体とした保育:前提 </p> <p>乳幼児期の発達の特徴 自己中心性 視野の狭さ 気持ちが ベース</p> <p>自明性、日常性、必然性</p> <p>「...ねばならない」を問い直す 「シナリオは、臨機応変に」</p> <p>エマージェント・カリキュラム 子どもと相互作用で創るカリキュラム</p>	<p style="text-align: center;"> 子ども主体とした保育: 環境を通じた教育 </p> <p>興味関心 遊具の豊かさ 教材の意図性 コーナーの工夫</p> <p>今後の課題＝ 探求コーナー: 調べたり、比べたり</p>
<p style="text-align: center;"> 子ども主体とした保育:コミュニケーション能力 </p> <p>ふりかえりや、話し合い場面の工夫</p> <p>話を聞く態度や姿勢につながる幼児期の経験とは 伝えたい気持ち(話したい気持ち) 聞きたい気持ち 両者に関わる肯定的体験の蓄積</p> <p>表現教育の基礎 語彙、表現の背景＝実体験の豊かさ 感情経験の豊かさとその共同経験の蓄積</p> <p>言葉の教育(8歳くらいまでが重要) 指示命令語ではなく、疑問語・誘い語・提案語 オープンエンドの問い パラレルトーク 子どもが主語となる言葉</p>	<p style="text-align: center;"> 保幼小接続 </p> <p>教員の方法の違いを確認 経験主義カリキュラム 教科主義カリキュラム</p> <p>エマージェント・カリキュラム</p> <p>教科書がない</p> <p>日常性・継続性・教育カリキュラムの中で</p>

保幼小接続

ステップ1: 交流

理解には

見る→語る→共に考える→一緒に教育を創る

ステップ2: 情報共有(特別なものだけではなく)

園だより、クラスだより、学級通信の共有

←多忙性: 直接あわずとも、情報の共有

ステップ3: 方法と内容の繋がり

現在のカリキュラムを活かして

ドキュメンテーション

保育のカリキュラム

子どもの姿を起点として…

「ねらい」

「環境構成」

「保育者の援助の工夫」

保育の評価

情意(心情・意欲・態度)の評価にあたって

論拠となる「子どもの姿」(洞察する力)

過程(プロセス)の評価

非認知的力の育ちを洞察

おわりに

<各園ドキュメンテーションの掲示>

会場にドキュメンテーション研修を通じて各園が作成されたドキュメンテーションを掲示、他園のを見ることでお互いに学びあいました。



参加者アンケートより

アンケート対象者 136人

内訳 保育所 私立72人、公立40人
幼稚園 私立11人、公立 4人
小学校 5人 その他 4人

アンケート回答数 99人 回答率 73%

※抜粋

1 乳幼児教育ビジョン経過報告について、ビジョンに期待すること

◇作業部会に参加させていただいたので、幼小中の者が集まり話し合えたことは大きな一歩と思う。形だけで終わらず、現場や保護者支援は問題も多いので、これをきっかけとして前進すべきと願う。

◇保・幼・小・中のそれぞれに壁が、まだまだあるように感じるので、ビジョンを作っただけで終わるのではなく、現場の職員全員がお互いに理解できるような場や機会が必要。

◇乳幼児期に経験したことや保育士と友達との関わりの中で育つ心の大切さを実感した。保幼小のつながりの大切さも実感した。

◇ビジョンが実現していけたら本当に素晴らしいと思う。そのためには、保護者の方々の理解も必要で、どこに価値観を持つかということはどう伝えていくか、分かってもらうかも課題。

◇子どもを主体とした保育について、みんなで学び考えを出し合うことで、意識の変化や、子どもとの関わり、職員同士だったり、保護者との関わり、連携が密になっていくこと。

◇今までは卒園や卒業でリセットされることが多かったが、0～15歳までの育ちを続いて見守れるようになると思う。

◇子どもたちのことを大勢の大人が考えるという態勢が素晴らしい環境であり、これからも続けていかなければならないと思う。

◇公私の保育所向向上に向けての動きから、幼稚園、学校とつながりが広まり、舞鶴市の資質向上の期待が持ててうれしい。

◇市内だけにとどまらず交流を深めていければと思う。

◇0歳児からの保育・教育の重要性の認識が広まること。保育・教育に携わる人たちが、共通の目標を持って保育・教育にあたること。
◇子どもも保育士も共に育てるような環境の充実。

◇自分たちが勉強してきたこと、大切にしていることが盛り込まれていると思って聞いていた。
◇共感できるビジョンであるので、このまま続けていってほしい。

◇乳児から中学校までという長いビジョンを持って保育・教育することの大切さを一般の方にも知っていただけたことが一番だと思う。

◇子どもを保育・教育する人(保育者も保護者も)、他にもいろんな人達がこのビジョンを見て、子どものことを知ってほしい。それが、舞鶴の子どもたちの成長につながってほしい。

◇保育者だけでなく、家庭や地域の方々に知っていただき、みんなで子育てしやすい地域になればと思う。そのために乳幼児期の育ち、大切な関わり役割を大切にしたい。

◇自分で考え判断し行動する力は、進学のために早くから親元を離れてしまうこの地域の子どもたちにとって、とても大事な力だと思ってい

る。乳幼児期の子どもに関わっている保育士にとって、こんな人に育ってほしいという思いで行ってきた保育が、本当に良かったのかどうかわかるのは随分後のこと。保・幼・小・中と同じ思いで一人一人の育ちを保障し、よりよい人間形成ができるビジョンであることを願う。

◇舞鶴市に住んでいる子どもたち全体が同じ教育を受けることが大事ということで、在宅の子どもたちも巻き込んで…が大事に思う。

◇0歳から15歳まで途切れずにみていくことは大切なことであり、その基盤となる乳幼児期の重要性に目を向けられたことは大きな意義を感じた。

◇専門職の者だけでなく市民全体が、このビジョンの存在を知り、理解してもらうこと。乳幼児期、それ以降においての子どもの育ちの大切さを知り、みんなで子育てしていく環境に、市になることを期待する。

◇どの園も同じ方向で保育にあたることができる。保幼小中の連携がもっとできたらいいと思う。保育園も幼・小・中とおなじくらいの待遇であるべきではないか。給料に差がありすぎる。

◇どの子も幸せに育っていけるよう力をつくしたい。ビジョンを実行するうえで、人的環境の大切さ(現場とのギャップ)をシステムとして確立してほしい。

◇舞鶴での子育てを望む人が1組でも増え、子どもに関心を持って子育てできる環境も含め生活を整えていけることを期待する。

◇ビジョン内容を保育に組み込んでいかねばならないが、自分にうまく反映させる力があるのだろうか心配でもある。

◇子どもたちの育てたい力、育てたい心、舞鶴市が一体となって進んで行けるところはとても力強いし、期待が大きい。

◇ビジョンの具現化を図る。どんどん実践し、報告会や交流会を定期的に行うことでビジョンの定着を図る。

◇ビジョン策定までの経過を報告していただき、その流れがよくわかった。たくさんの子どもに対する成長への教育の思いがこめられていて、良い結果として今後実行していけることを期待したい。

◇次世代を担う子どもたちが、ビジョンにより、心豊かな人間に育ってくれることを期待したい。また、自分自身の保育者としての質をもっと高めたい。素晴らしいビジョンなので全国に広まるとよい。

◇ビジョンで策定されたことが、全ての園校で実践され、進められていくことだと思う。

◇小中学校での学びの基盤となる乳幼児期の教育・保育の重要性と学びの芽生え等を小中学校の先生達が知り、幼保の先生達とつながるツールとなってほしい。

◇今年度、幼児教育ビジョンに関わらせていただき、乳幼児教育について改めて学ばせていただいた。小学校の教師がもっと乳幼児教育に関わっていかなくてはならないと思った。

2 研修事業報告を聞いて、または研修に参加しての感想等(子どもを主体とした保育、保幼小連携、ドキュメンテーション)

◇この数年で、自園も含め保育はかなり各園変化している。公開することで、保育の見直しや質の向上にもつながっているのでは。学ぶことも多いが、その研修に参加すること、園内で

研究する時間など難しい現実もある。このあたりも変化すると、もっと意味のある質の高い保育が実践できるのではないだろうか。

◇それぞれの園で、子どもたちが主体的に活動するための環境や素材、保育士の関わりなどを見直し、改善ができてきていること、更によりよくするためにを考えていることを、今回で全体で共有できたことがよかった。

◇まだまだ私自身の中に”こうでなければいけない”という思いや、子どもに対しての指示語などたくさんあるので、そこを気をつけ意識していかなければいけないと思う。子どもの発達をしっかりと捉え、観察する力をつけていきたい。他園の先生方の意識の持ち方、子どもたちへの関わり方などいろいろなことを学んだ。

◇子ども主体の保育をするにあたって、保育士としての子どもとの関わりについて、考えさせられることが研修を受けたり、公開する中でとても多かった。実際にやってみて経験することで、自分の勉強にもなるなど改めて思った。

◇各園子どもを主体とした保育をするために、子どもの姿をよく見て保育士の関わり方にもきめ細かな配慮が見られた。いかに子どもの思いに気づくかがとても大切だと改めて感じた。

◇保育士の関わり方で、子どもの発達や学びに変化があり、同じ遊びの中でも様々な成長が見られるのだと改めて感じた。

◇子どもを主体とした保育については、子どものことをよく見て、発言も聞くことで、子どもに対しての言葉がけができることを改めて感じた。保幼小連携もお互いのことを共有し合うことが大事であり、子どもたちにとっても必要なことだと知った。ドキュメンテーションについても、これから必要であり、保護者に対してわかりやすく書きたいと思った。

◇報告中に映されていた写真に、その時の学びが一緒に書かれていたのがとても良かった。子どもの言葉が書いてあったらもっと良かった。発表では他園が行われてきたことが知れたのでよい勉強の機会になった。

◇どの園も子どもを主体とした保育をしていて、いろいろなアイデアがあると思った。ドキュメンテーションでは、年齢にあった書き方をして、保護者の方に伝えていけばいいと分かった。

◇他園の保育やドキュメンテーションなど、日々の保育と重ねながら聞くことができ勉強になった。写真もあり分かりやすかった。

◇ドキュメンテーションがどの園もすごく変わってきていると感じた。自園でも保育の過程プロセスが少しずつ書けるようになってきたと思う。

◇廃材だった木材が子どもたちの素晴らしい遊び道具になったことに驚いた。釘打ちを挑戦したり、年長児の遊ぶ姿を見て、他のクラスも木に興味を持つなど、子どもたちが日々生き生きと楽しむ様子がわかった。なかなか、うちの園でも…とは、いかないが、子どもたちの興味からいろんな育ちが見られる保育をしたいと思う。保幼小連携では、以前から「遊びのフェスティバル」で取り組まれていることを知っていたが、市全体でいろんなところで定着しつつあるのは、子どもだけでなく年長児の保護者にとっても入学にあたっての不安が少しでも軽くなると思った。小学校へ上がることが、もっと近い存在になるように思う。

◇他園の報告を聞くことで、自分の園や立場に置き換えて、こんな見方がある、こんな方法

もあると気付くきっかけとなった。ドキュメンテーションなど続けていくことで自分の力になることや、より良い保育の見直しになることが、まとめの報告を聞き、さらに感じた。つい自分は「こうしなければならぬ」と考えがちだが、その考え方を意識して問い直していくことで、もっと子どもが主体的になる、自分の視野が広がるのではと思った。保幼小連携の話も聞くことができ、聞くほどにその重要性や必要性を感じた。

◇たくさん報告を聞いてよかった。それぞれの園で、子どもを主体とした保育とは、どのようなことなのか、考え、工夫されている様子が分かった。自分の園、子どもたちの姿をしっかりと捉え、実践していきたい。

◇日々の保育の中での環境構成の仕方、どこにねらいをもつか、しっかり意識化して取り組んでいくこと、子どもの考えを共に実現してくれる存在で保育士があることなど、とても考えさせられることが多く、難しさも感じた。でも、子どもと一緒に挑戦してみたり、その中でもし失敗してしまっても、その経験も、一つの学びや育ちにつながっていく大切なことだとも感じた。

◇子どもたちの育ちや学びがよく分かった。保幼小連携は、年長児が小学校へ移行するにあたってとてもよい取り組みだと思っていたが、1・2年生にとっても実のあるものになっていることに感動した。今後もぜひ続けていってほしい。

◇保育は今、変化の時、今日の3つのテーマは、どれも興味深いものだった。3年前には今ひとつ分からなかったことが、今ではこういうことなのか？とイメージを持つことができたので、今からスタートかなと思う。自園でよく考えて実践したいと思う。

◇同じ保育を行い子どもに接する時でも、自分の意識を変えることで、子どもの見えてくる姿も変わり、声かけや援助も違ってくと思う。

◇子どもを主体とした保育をするためには、環境はもちろんであるが、子どもと保育士との信頼関係が大切になってくることを感じた。保幼小連携については、就学するにあたって、子どもにとってとても貴重で気持ちの準備の手伝いができると思う。

◇子どもの一つ一つの自主性を認めるだけでなく、それを保育士がどのようなねらいをもってつなげていくか、ということをしっかり意識していく。

◇民間の保育園の方も報告をしてみようという思いを持ってされていることを嬉しく思う。今後ますます参加園や発表園が増え、舞鶴の保育全体が向上することを望む。

◇子ども主体の保育は、自分の視野の広さも大事だと思うので、いろんな話を聞けるのは、自分だったら・・・と考えて、深められるいい機会となった。

◇特にドキュメンテーションの話では、過程(プロセス)が大切であることを改めて感じた。できた、できなかったの結果だけを見るのではなく、子どもがどう関わったか、それをどう見てくれる人に伝えたいのか、もう一度しっかり考えたい。

◇子どもを主語にして話す、ということを以前もお聞きしていたが、つい「～しなよ」「～しよか」など、自分が主語になることが多くあった。今後、さらに意識して、子どもを主語にするようにしていきたいと思った。

◇何度も研修を受けさせていただき、何度も大切なことに改めて気づかされ、頭に入って

いき、昨年度よりも今年度・・・と年を重ねることに分かってきたように思う。保育をする際の視点を変えるだけで保育自体も変わることが分かった。

◇子ども主体だからこそ、活動につながりがあり、それが意味のあるつながりになっていることを改めて感じた。また小学校とつながることでお互いに相互作用があり、どちらにとってもプラスの学びがあることを実践されたことで具体的に分かった。

◇自分にはないアイデアや、子ども主体を進めるための工夫、保育を進める中での課題など、他園の内容を知ることができ、勉強になった。ドキュメンテーションについては、いつもたくさん園の様々な見せ方を実際に見せてもらえるので、次はこうしてみよう！と参考にさせてもらっている。

◇公開保育をされた園が、自分達の保育を振り返り、見直されていく中で、子どもの興味・関心をもとに、保育をされ、主体性を大事にされていることが、よく分かった。大変だと思うが、がんばっておられること、保育士間でも共有できるようされていることを感じた。

◇どの園も子ども主体的な保育をされているのがよくわかった。子どもたちの声から保育を広げられたり、環境設定も意識されている様子がわかった。

◇子どもを主体とした保育を行う上で、子どもが何に興味・関心があるのか、よく把握し、環境を構成していくことを意識して保育をしていると思うが、つい「これを使ってみな。」と子どもが考える前に言ってしまったり、興味・関心にあていない遊びをとり入れてしまっているのではないかと思ったりすることもあるので、子どもが主体となるように遊んでいる様子をよく観察し、その中で保育士にはどのような役割があるのかを考え、関わっていこうと思った。

◇子どもの見方が変わることで、子どもも変わり、保護者も変わっていく。子どもの幸せのためにさらに自分も頑張っていきたいと感じた。

◇各園それぞれの報告を聞いて、また新たな刺激になった。子どもを主体とした保育、本当に大切だと思う。これから子ども一人一人を大切に保育したい。

◇難しいことだなあという印象を持ちがちだが、そうではないのだということを感じる。どこに視点を置くかによって、子ども主体の保育が進んでいくことを実感した。

◇保小では小学生が保育園児のお世話をするのではなく、それぞれの良さが出し合える活動にという考えを聞き、これからの連携がますます楽しみになった。

◇保小連携についてよくわかった。保育園・幼稚園だけでなく、小学校の方からの報告もあり分かりやすかった。最初のビジョンにもつながっていくことでもあるので、みんなで子どもたちを育てていくことを意識していきたいと思った。

◇子どもを主体とした保育をすることで、子どもの思考力など様々な発達につながり、改めて大切だと感じた。

◇保幼小が連携することで、連続性のある学びにつながると改めて感じた。各園が工夫して日々の保育をされていて、自園にも取り入れたいと思えることもあったので今後生かしていきたい。

◇どの園も同じ思いを持って取り組んでいるの

で、この連携を継続できるようにと思う。

◇保育のあり方を考える気持ちになったのは、みなさんが保育に対して考えを変え、一斉・強制保育をやめ、自主的な活動をすることが大切だと思っておられる雰囲気を感じたこと。その意味を研修公開保育、雑誌、本で知り、共通点を見つけてから。

◇それぞれの園で取り組まれたことが知れ、保幼小が連携してこれからも続けていくことが、子どもの学び・保育につながっていくと感じた。また、ドキュメンテーションも繰り返し書き続けることが大切。

◇まだまだ勉強不足だと感じた。なかなか変わっていけない自分も感じ、しんどさもある。それを他の職員に聞いてもらって不安を解消しながら努めていきたい。

◇子ども主体の保育について、これから子どもたちの興味・関心がどこにあるのかよく見て、環境構成を大事にしていきたいと思った。学んだこととしてまとめていただき、再認識することができ、これからの保育に生かしていきたい。

◇プロジェクト型保育3年目ということで、どの園も子ども主体制となり、子ども発信での取り組みとなっているのがよく分かった。保幼小での取り組みでは、実際に出入りして見ることで、中での様子(発達)などもよく分かり、入学するにあたって、入学を受け入れる側としてもよい機会になったと思った。

◇年齢に応じてのドキュメンテーションで伝えたいことがよく分かった。報告の時に、いろいろな園の写真が流れていたの、流すのであれば報告されている方を流しておけばよいと思う。どうしても写真に目がいってしまう。

◇プロジェクト型保育、公開保育を通して、子ども主体とした保育を中心として行うようになったことで、環境の見直し、子どもの育ちや学び、保育者も一緒に子どもとより同じ目線で考え、学んでいくきっかけとなった。

◇まだまだ勉強中で今後も指導を受けたことを活かしていけるように園全体で取り組みたいと思う。子ども主体の保育というのは難しいが、子どもを第一に考えた保育をしていきたいと改めて思った。

◇日頃から、子どもたちの姿をよく見ることで、子どもたちが今、何に興味を持っているのかを知り、その遊びが発展していくように道具や機会など提供していけるようにしたいと思った。一番に子どもの思いを大切にしていきたい。

◇北野先生の話聞かせていただき、改めて、ドキュメンテーションのあり方等、考えさせていただいた。難しいこともあるが、自分の保育に自信を持って、取り組みたいと思う。

◇ドキュメンテーションに初めて取り組んだ時には、どうすればいいんだろう、という感じで手さぐりで進め始めたが、他の先生方に「これ良かったね」「こうすればもっと良いね」とたくさんアドバイスなどをいただき、とても勉強になった。

◇保育の質向上推進事業に取り組み、自園の中でもさらに保育について考え、話し合う機会が持てた。これに終わらず、この取り組みを続けていきたい。

◇他園の取り組みを聞き、子どもたちの姿が、子どもを主体とした保育を通して変化していく様子も感じられた。

◇当初消極的だったところも公開を引き受けられたり、ドキュメンテーションを作成することによ

り、北野先生の指導のもと前向きに質を向上されていくという空気が感じられ、とてもうれしく思い、自分もがんばろうという気になった。

◇幼小連携の大切さを改めて感じた。発表の機会を与えてもらうことで、私達自身の意識が高まった。幼稚園も小学校も連携のおかげで子どもが更に成長したように思う。

◇保育園さんのがんばりはすごいです。幼稚園としてもがんばりたいと思いました。

◇日頃自園の保育に必死で、なかなか目を向けることのないお話を講演や研修で聞かせていただき、今子どもたちに大切なことは何かということを知られること大変勉強になる。今後の保育に少しずつでも取り入れられたらと思う。

◇子どもの姿・実践を通しての報告を聞くことができ、いろいろな園での活動、それによる子どもの成長、主体性から考えた点などの結果を知り、私自身学ぶことがたくさんできた。

◇公開保育では、どの園もとても楽しく、子どもたちの表情が生き生きしていたのが印象的だった。良い部分ばかりだったので、ぜひ自園の保育にも取り入れたいと思った。

◇それぞれの園で工夫されたところ、取り組まれたところを、本園の実践と見直し、研修を進めていきたい。

◇保幼小連携、なかなか難しい部分もあるが、できることから進めていきたいなどと改めて感じた。特別なことではなく継続して取り組めるようになっていきたい。

◇東山保育園さんのトーマスポールづくりのお話は、特に興味深く聞かせていただいた。子どもたちが愛着のある遊具の解体に自明性をもって取り組んだ姿が印象的だった。

◇保幼小連携を今後も進めていくために、小学校での年間カリキュラムに取り組むことが大切だと思う。そのことにより、より連携が強まり、継続していくことができると思う。小学校では、1、2年生の担任だけではなく、学校全体で保幼小連携を広め、理解していきたいと思う。

◇子どもを主体という中で、振り返りを大切にされていること、(年長児)対指導者でなく、子ども同士とかかわりを振り返りの中で目指されていることは、小学校でもまさに大切にしていることで、連携した取り組みとして進めていきたいと思った。

◇研修や保幼小連携の取り組みを保幼小の先生達と一緒にすることで相互理解が進み、子どもの成長につながると思う。

◇舞鶴市内の多くの保育園・幼稚園が、子どもを主体とした保育に取り組んでこられたことが分かった。乳幼児期の発達の特徴に適した教育・保育を目指して公開保育がたくさん行われたことは大切なことだと思った。

3. 全体講評について、感想等

◇大人がいろいろなことを教えることは簡単だが、子どもたち自身が、いろいろな物や自然、人との関わりで経験や体験が大切だということ、そこから、いろいろなことを学ぶということがよくわかった。それを支援、意図的に関わるということを私達保育士がする。

◇乳幼児期に大切な保育者の関わりは、子どもの興味関心から成り立つものであり、ドキュメンテーション作成にあたっては、プロセスが重要であることがよく分かった。今後の保育につなげられるようにしたい。

◇乳幼児期には”教科書がない”というのが印象的だった。目の前の子どもの姿を見て、子ども一人ひとりが主役になれるような保育をしていきたいと思う。

◇ドキュメンテーションは、ドキュメントじゃない。「～ねばならない」を壊していったり、「北野式」学びの研修や著書を全職員に体験してもらいたい。

◇子どもたちが言葉を習得したり、感情が分かるのは、遊びや生活の中での体験から学んでいること、体験はとても大切だと分かった。

◇自園の保育の内容は、まだ課題が多いと感じているが、やっていることは教えていただいたことを元に、方向性は間違っていないと感じることができた。

◇日々、あわただしく過ぎていきがちだが、子どもたちの思い、つぶやきに気づき、主体とした保育の大切さを感じた。舞鶴市として取り組んでいる子育てについて、私も1人の保育士として力になっていることに誇りを持てた。もっと自分自身勉強して保育を楽しみたいと思う。

◇子どもが主語になる言葉を意識して使っていくと思う。実際の保育にすぐに生かせるようなヒントがお話の中にたくさんあった。

◇国の動きなども聞いて、考えさせられた。保育の中で何が大切なのか簡潔に聞いて良かった。ドキュメンテーションをもっと活用できればと思っている。

◇振り返ることができ良かった。実践に基づいた一つ一つの言葉が、とても胸に響いた。子ども達の「こうしたい」という思いから、ねらいや意図をもって保育をしていく、臨機応変に対応していくことの大切さを学んだ。

◇改めて子どもの主体性の大切さを感じた。自分の園でできることをしっかりと取り入れていきたい。たくさん学べ、よかった。

◇舞鶴が全国に発信していることが多いんだと感じた。乗り遅れないようにするには…舞鶴にいる以上、がんばりたい。

◇目先の事に精一杯で、余裕がなくなりがちだが、もう一度保育を振り返り見直していきたい。

◇舞鶴市の取り組みのすごさを感じた。これからさらに保育の勉強をしていきたいと思う。

◇北野先生の話は、何度聞いても胸が熱くなり、明日からの保育ガンバローという気持ちがわいてくる。

◇やりつばなしでは悩むことも多く、講評していただけるので方向性が見えてうれしい。

◇発達を捉えようとして子どもが主体的に動ける保育をすること…自分の保育の中で子どもが主体的に動いているか？改めて振り返りをしなければいけないと感じた。2歳児の担任なので子どもが思う存分自我を出せているか？もよく考えていきたいと思う。ドキュメンテーション、結果じゃなくプロセスを大事に書いていきたい。

◇感情経験やその他様々な経験が、言葉や人の話を聞く姿勢にもつながっていくことを知り、全ての基礎は乳幼児期の経験であることを改めて感じた。

◇子ども主体…改めて自分の今している保育は、まだまだ保育士主体だと気付かされた。これから少しずつ意識を変えて、保育をよくしていきたいと思った。

◇舞鶴市がいろいろなところで紹介されている…現場もがんばらないといけないなあと思った…◇舞鶴市の取り組みが全国に広がっていて驚

いた。毎回舞鶴市に来ていただき、講評して下さることやお話して下さることを嬉しく感じ、大切にしたい。

◇舞鶴市の取り組みが、全国的に取り上げられていて驚いた。

◇舞鶴でのできごとが日本の各地へ影響していることに驚いた。

◇ドキュメンテーションを書くとき、「～した、～できた」という結果を書くのではなく、子どもがどんなことに興味・関心を持ち、それとどのように関わったのかというプロセスを書くのだということを知ったので、もう一度自分のドキュメンテーションを見て振り返り、これからのドキュメンテーションがよりよいものになるように生かしていきたいと思う。

◇過程を大切に、子どもに寄り添った保育をし、保護者にもその大切さを伝えていきたい。

◇国の単位で保育の方にもお金がおおりよう活動され、すばらしいと思う。全国的に国として取り組むべき。

◇保育の大切さのお話を聞いて、勉強になった。保育の方にも国が力を入れて、いい保育ができればいいなと思った。

◇たくさん内容で、ひとつひとつの時間が短くて残念。もっと聞きたかった。

◇保育園、幼稚園、小学校、市の方と、それぞれの立場からの話を聞かせていただき、より分かりやすかった。今後さらにより活動となっていけるよう園でできること、自分ができるところをしっかりとしていきたい。

◇子どもの興味・関心から、援助の方法を考えたことがしていけるように日々の保育をしていきたいと思った。

◇子どもにとって経験や体験がとても大切で、そこに関わる保育士(大人)の声かけもとても大切であることを改めて感じた。

◇舞鶴の子どものためにみんなでアクションをおこしていく大切さを感じた。

◇団体生活の中でのたくさんの経験の大切さを感じた。園に来てからこそできる体験・経験をいっぱいしていきたい。

◇振り返り、話し合いの場面の工夫をしていくことで、コミュニケーションをよりよくし、人のかかわりも大切にしていきたい。

◇1年間の保育のまとめとしてお聞きすることで、自分自身の振り返りになり、自分の足りなかったところが明確となった。

◇常に全国的なレベルで子どもの育ちの大切さや、保育士の質の向上にかかわる待遇改善を根底に講評して下さり、明日への意欲となっている。

◇ビジョン・研修の必要性を言ってもらって、教師にはよく分かったと思う。ドキュメンテーションをやってみたいと思う。(勉強不足で知らなかった。)とても大切な取り組みだと思った。

◇わかりやすく納得できるお話だった。幼稚園も、もっともつがなければならない…と思う。保育の質を高めていきたいと思った。

◇ビジョンに対する舞鶴市の教育や、日本、世界から見た保育へのいろいろな課題を大きな点から説明されて、とても考えさせられた。

◇知的な好奇心、探究心については、課題としてあがっているものの、十分取り組めていないことなので、職員間での意識を共通認識したい。豊かな感情体験を元にした語彙力のアップを見直したい。

◇舞鶴が取り組んでいることがすごいことなんだと改めて感じ、少しでも関わっていることに嬉しくなった。もう少しゆっくりお話が聞きたかった。

◇乳幼児期の発達の特徴が分かり、児童期の教育との違いが理解できた。幼小の連携を進めるためにも、交流や参観を通じて、共に考え進めていくことが大切だと思った。

◇北野先生のお話はとてもわかりやすく、小学校教員が聞いてもとてもためになる。特に小学校入門期では、大切にしたいことがあった。

◇聞く力を身に付けるためには、聞いてもらってうれしい、聞いてよかったと思う経験を積み重ねておくことが大切と話の中にあった。肯定的な体験が積み重ねられるようにがんばりたいと思った。

4. 今後の研修について、期待すること

◇保・幼・小の枠を越えた共有意識、互いの理解が深まるような研修を求める。

◇子ども主体の保育の難しさを感じているので、他園の環境をもっともって見て、お互いに勉強していきたい。

◇他園とエピソードやドキュメンテーションを見せ合ったり、交流する場を持つことで学び合っていきたい。

◇保育に活かせるような(実践)内容の研修。(発達支援について・・・など)

◇もっと他の園の保育を知りたい。保育園だけでなく幼稚園、小学校での子どもの様子、どんな育ち方をしているのか知りたい。

◇保育の質の向上で、引き続き他園の保育実践など、報告し合える場があると良い。

◇続けることが大切だと思う。日々の保育、他の研修などある中、どう時間を見つけていくか。

◇グループワークなどがあると様々な意見が聞けてよかったので、今後も続けてほしい。

◇公開保育は他園の保育を知る良い機会なので続けてほしい。

◇舞鶴の活動を、舞鶴以外で報告する機会がもっと増えればよいと感じた。

◇さらに多くの方が参加し、同じ気持ちで保育していけたらうれしい。

◇情報交換できる機会(公開保育やカンファレンス等)がたくさんあればうれしい。

◇北野先生の話は、何度聞いても新しい発見があり、これからもたくさん聞きたい。

◇今日のような研修が保幼小のもっと多くの先生方と共有できたらいいと思う。

◇ビジョンについての研修。

◇幼稚園、小学校の先生方との意見交流の場。一緒に学べる場があるといい。

◇具体的な取り組みをもっと勉強したい。

◇研修に出やすい体制を整えてほしい。

◇学び合える研修。今もレベルが高いと思う。

◇今後も公開保育があれば、参加したい。今までしてもらえない園の保育が見たい。

◇公開保育後の保育の現状。

◇研修の機会が多いとモチベーションアップにもつながると思う。皆に機会があればと思う。

◇作業部会の時のように、保幼・小・中の先生方が共に学んだり、交流ができる場が増えていくことを期待したい。

◇小学校として、少しでも連携が進み、また定着していくよう活動を続けていきたいと思う。

◇北野先生のお話を小中学校でも聴かせてい

たきたい。0歳からの教育の大切さを学びたい。

5. 今年度、研修を受けて、自園の保育に活かされたこと

→それによる、子どもや保護者の変化、反応等のエピソード

◇公開保育、ねらいを明確にすること。接続に関しては、そのねらいを共有し、意識し活動・指導をする。保育士同士が保育を語る。保育士も自己発揮できること(職員集団の中で)

◇子どもを見る視点、保護者にこの成長を伝えたいから、の思いを持って子どもに関わったり、ドキュメンテーションに表すことができるようになり始めた。

◇公開保育では、環境設定の仕方をたくさん学ばせてもらい、園で真似できることは取り入れさせてもらい勉強になった。いろんな方が書かれたドキュメンテーションを見ることで、いろんな角度からの考え方や保育の意図、関わり方などを学ばせていただいた。

◇他園を見て、ドキュメンテーションの書き方や、保育内容の改めを考え直すことができ、保育も少しずつ変わってきていると思う。

→保育内容が変わってきた中で、保護者も写真や子どもの姿に興味を持って見られることも少しずつ増えてきている。

◇子ども主体の保育をするために、自分の保育、子どもへの関わり方など、見つめ直すことができた。保育者全員が意識することで、少しずつ保育が変化していると思う。

→子どもが明日はこれをしたい、これをしようと楽しみに登園する姿があったり、のびのびと自由に遊べることで子どもが生き生きと登園しているという保護者の声もあった。

◇今までの保育を見直す機会になり、子どもの主体性を考えて、子どもへの声かけや関わりを意識するようになってきた。

◇クラスで話し合う機会が増えた。

◇公開保育へ行かせてもらった時に、ドキュメンテーションの書き方をねらい、気づきを書くよう教えていただき、それをふまえ、本園でも、ねらいや気づきなどを書くようになった。

→(保護者が)ドキュメンテーションを子どもと一緒に見てくれるようになった。

◇公開保育を受けて、改めてどんなことを考えて保育していたか、子どものことをどれだけ見れていたか知ることができた。

→ドキュメンテーションを見て、子どもが自分がどこにいるのか伝えるので、保護者の方も見てくれるようになった。

◇公開保育を受けたことで、良い部分も悪い部分もそれぞれ教えてもらい、これからの保育に対する見通しがつきやすくなった。

◇他園の方々に見ていただくことで、改めて日々の保育を職員全体で考える良い機会となった。

◇ドキュメンテーションの必要性、書き方などを知れ、改めて日々の保育を見直せた。

→ドキュメンテーションを見て「こんなことが出来るんや」とビックリされていた。言葉だけでは伝えきれない子どもの姿を知ってもらえた。

◇子どもの気持ちを読み取って保育を展開していくことや、遊びを個から他児へとつなげていくことなど、保育環境のあり方。

→子どもの成長に気づき、そのことを伝えてくだ

さるようになった。

◇クラスの保育士間(担任同士)の連携が取れた。保育の振り返りができた。

→(保護者が)玄関に貼り出してあるドキュメンテーションを気にして見てくれるようになった。写真をのせることで興味・関心につながっていった。

◇公開保育をしたことで、園の保育を見直すきっかけになった。また、他園の保育を見せてもらうことで講義を受けるより学ぶことが多かったように思う。

◇公開保育を受けるにあたり、自分達の保育を見直すよい機会となった。子どもを見る視点が変わりつつある。

◇保育室や園庭の環境を見直すきっかけとなったことと、保育を園全体で考え直すきっかけとなった。

◇自園の保育環境についてはもちろん見直すことができたが、それよりも、保育者が保育について考える良い機会になった。“たくましく生きる力”とは、何なのかということに始まり、各年齢をどう大切にしていくのかということを考え、保育者の学びたいという気持ちにもつながっている。人的な環境こそが、保育の上でどれほど大切かということを再確認できた。

→担任の意識が変わったことで、子どもの物ごとに向かう姿勢(意識)が変わった。

◇たくさんのアドバイスをいただいて、おもちゃの置き方だったり、環境のあり方を見直すことで、大人の意識も変わったし、なにより、子どもたちの遊びも、選んで遊ぶ環境への充実へつながった。

→(子どもが)自分達で考えを出し合い遊ぶ姿が増えた。(自由遊びの時間)

◇環境について考え、保育者同士で意見を出し合い整えていった。

→(子どもが)自分でしたい遊びを自分たちで用意して工夫して遊べるようになった。

◇話し合いによくこのテーマが出てくるようになったが、まだまだ話し合い段階。

◇まずは職員の考え方でいろいろな園の話を書くことは勉強になる。

→行事に対する感想は少し違った感想が聞かれることが増えてきたが、まだ伝えきれていない部分が多い。

◇ドキュメンテーションを取り組むことで、子どもたちの姿、自身の保育を振り返ることができる。

→ドキュメンテーションを子どもたちも喜び、子どもの方から「お母さん見て!」「こんなんしたで!」と嬉しそうである。

◇今年度何度かドキュメンテーションを書くということしかできず、もっとドキュメンテーションをして学んだことを活かしていければよかったと思う。

→園の玄関に貼ってあることで、保護者の方が興味をもって見てくださるようになり、こんな視点があるんですねという発見もあったよう。

◇子どもの自主性にまかせた保育でも、しっかりと保育士のねらい、意図はおいておく。

→「あれしたい!!これしたい!!」と自分のしたいことをしっかり伝えたり、どうすればよいか自分で考え行動する子が増えてきたように思う。

◇保育に関しても、ドキュメンテーションに関しても試行錯誤。悩んだ日々が保育になるという北野先生の言葉を胸にがんばりたい。

◇刺激を受け、やってみようと保育の幅が広がった。

→育ちに関する保護者のコメントが増え、子どもたちは自分のしたいこと興味を深めようとする姿が増えた。

◇環境(保育室・園庭など)を見直した。

→(子どもが)自分から環境に働きかける姿がよく見られるようになった。

◇ドキュメンテーションの書き方を、以前よりも自信を持って書けるようになったかな・・・と自分なりに思っている。

◇ドキュメンテーションを書く際の視点が変わった。親に伝えたいことも書くようになった。

◇子どもたちがすることや発言を見守りすぐに答えは出さず、考える時間ができるような声かけをした。

→こちらから声かけしなくても、自主的に友達同士誘い合って練習する姿があった。またドキュメンテーションを掲示することにより、「こんなことがあったんですね」など結果だけでなく過程に対するコメントも増えたように思う。

◇子どもと考える一緒に作ることや、楽しむことを意識できるようになってきた。

→保護者の方が保育に興味を持ってくれ、家でも、子どもと一緒に保育の内容を深めてくれるケースが何度もあった。

◇日常の遊びだけでなく行事も子ども主体で取り組んでいるが、少しずつ出来ばえではなく過程やその中の苦労や子どもの成長に気づいてもらえるようになってきた。

◇園内研修が設けられ、同じドキュメンテーションでもいろんな見方、考え方があり、いろんな先生の意見を知ることができた。

◇ドキュメンテーションの研修を受けて、写真の撮り方、書き方などを学び、普段の保育をドキュメンテーションに書くときは意識して学んだことを取り入れた。

・コーナーをつくることで、遊びに集中でき、子どもたちの世界がつくられるということを知り、コーナーをつくるようにした。

→コーナーをつくることにより、子ども同士の関わりが増え、落ち着いて遊んでいる姿が見られた。

◇違う園の公開保育を見て、参考になることはすぐ園に持ち帰り実践した。

→クラスに貼ってあるドキュメンテーションは自分の子が載っていることもあり、(保護者が)よく見ておられる。

◇多々あり。大変だったけれど、自分の保育を振り返り、いい機会となった。楽しい保育の展開があり、これもこの保育の取り組みに参加できたからかなと感謝している。

→子どもの発言が増え、自分の思いをこれまで以上に言葉にできるようになった。それによって保育も子ども主体のものになってきた。保護者に子どもの成長の姿に共感してもらう機会となった。(ドキュメンテーション)

◇今まで以上に職員間で、今子どもたちは何に興味あるのか、その遊びをするには、どんな環境を整えたいか、子どもにとってどうあるべきか、話し合う機会が増え、共通意識で考えていけるようになってきていると思う。

→「先生これしていい？」と聞いていた子どもが多かったが、「これがやりたい」「こうしたい」と「こう思う」という自分の思い、したいことを明確に伝えられるようになってきている。

生き生きと活動している子どもの姿を見て、保護者も嬉しそうである。子どもの成長を保護者と話し、共感しあえることが増えてきた。

◇子ども主体の保育について、年々理解を深めることができた。また今年度は指導案にも取り組んだ。職員同士で研修もしたが、まだまだこれから理解を深めていきたい。

◇ドキュメンテーションを立ち止まって子どもの学びや育ちまで読まれる保護者の方が増え、そこから親子の会話が増えたり、子どもの育ちなどに気づいてもらうことができています。

◇おもちゃをそろえたり、環境が少し変化した。子どもへの声かけ一つも変えていくことができた。

→ドキュメンテーションに目を向ける保護者が増えた。自分で考えて遊びを広げていく子どもの姿が見られた。

◇公開保育を行うにあたり、日々の保育のあり方や子どもの発達等考え直すよい機会になった。

→好きな遊びを選んだり、自分達で考えて遊ぶことができるようになってきた。

◇これから勉強し、みんなで話し合いたい。

◇自分の意識が少しずつ変わってきた。子どもを見る視点が変わり、他の職員と話す機会が増えた。

→「なんでなん?」「なんでそれするの?」と活動に素朴な質問や疑問を伝える子も増え、納得して遊びや活動に入っていく姿が見られるようになっていった。

◇普段の保育の見直しをしたことが大きな変革だったと思う。それを継続する大切さも感じている。ドキュメンテーションでは、自分の保育を振り返るきっかけにもなった。

◇保育士の連携が強くなり、特にクラス担当の保育士との連絡はしっかりしてきた。子どもや保護者の情報交換がしっかりできている。

→作品展・参観日などにゆっくりドキュメンテーションを見てもう時間をつくった。その時は保育園での子どもの様子がわかったとの声をいただいた。

◇職員同士の連携がよいと、よい保育ができる。

◇子どもの発達をより見れるようになった。環境の見直し。保育士の連携を密にしてとるようになった。ドキュメンテーションを作成したことで子どもの育ち、学びが分かるようになった。

→いろいろな体験、経験を通して、子どもの思考力、表現する力、語彙力など、人と人とへかわりの中で育てている。

◇保育の見直し、子どもが何に興味を持っているのか、職員同士の連携など意識するようになり、少しずつ保育の仕方も変えた保育ができていると思う。

→子どもたちからの疑問・質問・誘い語・提案などを多く聞くようになった。

◇保育参観や収穫祭・作品展などの行事の時に各部屋にドキュメンテーションを貼り、保護者にゆっくり見てもらえるようにした。

→まだ写真の中の子どもの姿を探す保護者もいるが、文を読んで、感想を伝えてくれる保護者も増えてきた。

◇自分ではこれでいいのかな?と不安になることは保育の中で時々あり、それを他の先生方に見ていただいたり、意見をいただいたりする機会を多く持て、自分の保育に活かすことができ

た。

◇子ども主体、子どもが自ら選んで考えて遊べる環境づくりを心がけるようになった。

◇一歩ずつでも変わっていくことを意識すること、行事やおたよりなど機会を捉えて発信している。

→発信を繰り返し積んでいくことで、変えていけること(少しずつですが)を感じている。また子どもが変化することで伝えていけると思う。

◇意識して、現在の子どもの様子や発達をたより・日誌などで(保護者に)伝えた。また行事では、保育所の意図するところを何度も事前に伝え、子どもたちが主体的にあそんだり生活している素晴らしさを勉強した。

→そのことにより、(保護者の)行事を見る目も変化してきて、見栄えだけでなく子ども同士の育ちやねらいに沿った子どもの様子をみとってくださり、アンケートに返していただけて、大変うれしい思いがあり、今後への意欲となった。

◇園児が主体的に遊べる環境づくりに努めた。自ら遊びを発見したことを園全体に広められた。自然のものを常に部屋に用意した。

→大変喜んでもらえた。感動してもらった。(砂場、赤土の場等も含め)

◇子ども自ら活動できる環境構成について考える良い機会になった。少しずつ変えていきたい。

→植物を身近に置くことにより、水やりを進んだり、生長に興味を持ち、伝えあえるようになった。

◇子どもが主体的になる保育というものが、日々様々な活動、生活において、取り入れられるように、環境、保育者自信の行動に気をつけていった。

→子どもが主体になることで保育者が主になることが少なくなり、子ども自身で意見を言ったり遊び・生活を進めていったり、他の子どもたちとそれぞれが主体となって考えを言ったり、生活が進み、見守ることが多くなった。

◇公開保育をすることで、指導案の中での言葉(表現)の使い方、ねらいと評価の立て方、環境構成の仕方等を職員間で共通理解し、考え合うきっかけとなっている。

◇ドキュメンテーション、はじめは書くことにとっても抵抗があったが、書くことで子どもの姿がよく分かるようになった。

◇公開授業を通して、年長児、1・2年生それぞれの発達段階を理解することができ、その後の成長につながった。特に2年生はリーダーとしての素地ができた。

◇公開保育により、保幼で子どもたちが主体的に活動したり、気づきを持ったりしていることや、先生達が意図的に環境設定されたり、声かけをされたりしている姿に学ばせていただいた。それらの育ちを小学校でも伸ばしていきたい。